

## 17. (Gno.53) 環境法政策の国際比較研究

代表：牛嶋 仁

2007 年度（開始）

### 【研究の目的】

環境法政策に関して広く国際比較研究を行う。特に、日米欧の比較研究が中心になるが、研究の拡がりに応じて、アジア諸国との比較も行いたい。

### 【研究活動及び成果】

#### 総括

本年度は、他研究プロジェクト研究会との共催を積極的に進めて、本研究グループのメンバーまたはグループ外研究者・実務家による報告を素材に本研究グループ・テーマについて多面的な角度から検討を行った。そこでは、近年特に議論されている環境法政策の諸論点について、伝統的な枠組みのイノベーションへの胎動が見られる。

#### 口頭発表

以下の研究会を実施した。

#### 1. 2025 年 3 月 20 日（木・祝） 14:00–17:30（ハイブリッド形式）

報告者 1：坂口 滉季 氏（中央大学法学部助教）

「宇宙－地球の相互の環境問題観測：特性と限界」

報告者 2：村山 友章 氏（環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室主査）

「太陽光発電設備のリサイクル制度の検討状況について」

\* 中央大学社会科学研究所「気候変動法と政策：超域的視点の形成」チーム研究会と共催

#### 2. 2025 年 3 月 27 日（木） 10:00～12:00（ハイブリッド形式）

報告者 1：早川 有紀 氏（関西学院大学准教授）

「カリフォルニア州における環境正義政策の実施と Collaborative Governance」

報告者 2：辻 陽 氏（近畿大学法学部教授）

「米国の環境正義をめぐる先行研究」

\* 科研費・国際共同研究加速基金（海外連携研究）「『社会的正義』実現メカニズムの学際的解明」プロジェクト（24KK0041）と共催

#### 3. 2025 年 3 月 28 日（金） 14:00～17:30（ハイブリッド形式）

報告者 1：飯嶋佑美 氏（日本国際問題研究所研究員）

「中国によるグローバルな生態文明の構築」

報告者 2：古谷英恵 氏（武蔵野大学教授）

「近時の気候変動訴訟の動向」

報告者 3：手計太一 氏（本学理工学部教授）

「気候変動に適応した河川計画と流域治水」

\* 中央大学社会科学研究所「気候変動法と政策：超域的視点の形成」チーム研究会と共催